きいちゃんの
いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。

第１１号
令和4年10月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 御坊市 「ドリーム農園」

御坊市で様々な方々が集まり、農作業を通して交流しているのがドリーム農園です。
中心になっているのは、生活支援コーディネーターでもある玉置さん。今回、ドリーム農園の農作業に参加させていただき、参加者の皆様や玉置さんにお話を伺いました。

ドリーム農園のみなさま

ドリーム農園発足の経緯は？

ドリーム農園の畑は個人が所有している土地で、持ち主は西山さんです。西山さんが畑を管理できなくなってきたという情報を玉置さんがキャッチし、「この畑を活動の場、活躍の場として活用すれば、参加したいと思っている方がいるんじゃないか」と考え、地域の方に声掛けすることで、ドリーム農園が発足しました。

活動内容は？

ドリーム農園では、毎月第２・第４金曜日に集まり農作業をしています。農園には、季節の野菜作りの畑に加え、四季の花を育てるスペースやBBQをするスペースなどがあります。広い畑を活用し、さつまいもを収穫する際は幼稚園児と一緒に芋ほりと焼き芋をするなど、世代を超えた交流も行っているそうです。

ドリーム農園の目的

ドリーム農園のねらいは２つ。まずは、必要とされる喜びを感じ、生きがいをもってもらうことのできる場の提供。それから、ひとりで管理が難しくなった畑を地域の皆さんで活用してほしいという思いの実現です。実際、ドリーム農園を訪問させていただき、ドリーム農園が担う様々な役割を実感しました。
今後は、ニーズに合った方にたくさん来てもらい、多世代交流の場としていきたいということです！

詳しくは次ページ

毎月開催される「作戦会議」

ココがすごい！

御坊市では、毎月１回「作戦会議」が行われています。
出席しているのは、第１層と第２層の生活支援コーディネーター、市の認知症施策担当者、社会福祉協議会の地域福祉担当者などです。

第1層SC 丸山さん

第2層SC 玉置さん

作戦会議では、地域を訪問して聞き取りをした情報の共有、今後どういったところを訪問し、どういった内容を聞き取りしていくかなどの話し合いが行われていました。

「作戦会議」で共有されていたこと

今回見学させていただいた「作戦会議」では、具体的に下記の内容が共有されていました。

- それぞれの地域での「まち歩き」の報告（商店、タクシー会社、お寺、郵便局等でどういった方々が集まり、どういったことが話し合われていたか）
- 民生委員・児童委員と一緒にひきこもりについての研修会に参加した報告
- 通いの場へ訪問して聞いた参加者の声の共有　等

「作戦会議」の様子

県からのお知らせ

●県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。
是非ご活用をお願いします。

●皆様の取り組みを紹介させてください。
県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課　電話：073-441-2521

ドリーム農園が担う様々な役割

ドリーム農園には様々な方が参加し、皆で協力して取組を行っています。そのため、参加者に合わせた配慮や農園の普段の管理など、生活支援コーディネーター等の負担は大きいと思いますが、継続して取組ができるような心がけがなされていました。
また、今回の取材を通して、単なる共同農園としての役割以外の大切な側面が見えてきました。

農作業を通した交流の場

ドリーム農園では皆で協力して野菜の苗の植え付け、野菜の収穫、草抜きや虫取りなどの手入れを行います。この日は、みなさん協力して大葉やナス、ミニトマトの収穫をされていました。
また、収穫した野菜を使った料理の試食会を年６回行っており、食事をしながら交流しているとのことです！

取組のモチベーション

SCの丸山さんは「どんな活動でも楽しみがないと続かないので、楽しく取り組むことで、参加者やSCのモチベーションもアップするよう心がけています。」と話されていました。

様々な形の社会参加の場

ドリーム農園の役割のひとつが社会参加の場です。
津村さんが楽しみにしているのは、「おしゃべり」と「差し入れ」。この日も参加者の皆様と楽しく交流し、美味しいアイスクリームを差し入れされていました。このように農作業をするだけではない参加者もいらっしゃいます。

津村さん

また、ドリーム農園では、皆が集まる第２・第４金曜日以外に様子を見てくれる人も募集しています。藤田さんはドリーム農園に参加していますが、実は、作業をするのは誰もいない午前中です。農作業をするのは好きですが、人と接することが得意でない方でも参加できます。
藤田さんは、仕事を辞めて新たな居場所や役割を探していたところ、ドリーム農園と出会い、新たな役割ができ、毎日活動されているということです！

藤田さん

誰でも参加できる場

ドリーム農園の参加者の多くは認知症の方です。
参加者の山本さんもその一人です。認知症のためドリーム農園の集まりがある日を忘れがちですが、毎回、生活支援コーディネーターや地域包括支援センター職員が山本さんのご自宅に声掛けに行くので、いつも参加することができています。
この日は、ドリーム農園オリジナルのTシャツを着て参加されていました！

山本さん・Tシャツ

また、「地域密着型複合施設あがら花まる」のみなさんは、認知症の方とスタッフの方が一緒に参加されています。農園に設置している看板やベンチ、のぼり等は、なんとあがら花まるの利用者さんが手作りされたそうです！

あがら花まるのみなさま

管理ができなくなった畑の活用

畑の持ち主である西山さんは、以前は旦那さんとともに畑で農作物を作ったり食品加工をしていましたが、その旦那さんが認知症になり畑や倉庫を管理していくのが難しくなりました。しかし、ドリーム農園が発足したことで畑が管理されるようになり、倉庫も活用されています。西山さんは「畑が活用されて嬉しい。皆が喜ぶ顔が見れたらいいのよ」とおっしゃっていました。

西山さん

無人販売所での販売

最近特に西山さんが楽しみにしているのが、無人販売所での野菜の売れ行きです。皆で作った立派なダイコンがすぐに売り切れた時は、とても嬉しかったそうです！

無人販売所